

■令和5年度第1回和歌山県スポーツ推進審議会 議事録

日 時：令和5年6月7日（水）10：30～11：30

場 所：ホテルアバローム紀の国 2階 鳳凰の間

- ◆出席者：山下 郁夫会長（県体育協会副会長）
橋爪 静夫副会長（学識経験者）
押村 浩（学識経験者）
川畑 豪則（県小学校体育連絡協議会会長）
阪本 憲二（障害者スポーツ代表）
坂本 政行（学識経験者）
筋師 光博（県スポーツ推進委員協議会会長）
田村 光穂（県スポーツ振興財団常務理事）
中西 朋子（スポーツ選手・指導者代表）
西上 嘉人（県高等学校体育連盟会長）
坂東 あつみ（女性スポーツ代表）
彦次 佳（学識経験者）
三井 利仁（学識経験者）
南 由佳（学識経験者）
本松 大策（県PTA連合会副会長）
吉川 豊（県中学校体育連盟会長）

- ◆事務局：宮崎教育長
栗生生涯学習局長
スポーツ課 田伏課長
上野副課長
坂口副課長
杉田総務管理班長
森スポーツ企画班長
橋爪生涯スポーツ班長
向井主任
障害福祉課 橋本副課長
辻岡班長
平岡主査
義務教育課 武田指導主事

◆議事

1 開会

2 教育長あいさつ

3 委員紹介

4 議題

- (1) 和歌山県スポーツ推進計画（改訂）について
資料1により事務局（森スポーツ企画班長）が説明
〔質疑応答等〕

(委員)

28 ページ、身体障害者の大会については昔から各種支援学校の生徒がたくさん出場しているが、最近はそのOBの方々が出場するのが大部分であって、支援学校の生徒さんたちが大会に出てきてくれない。この中に県小学校体育連絡協議会、県中学校や県高等学校体育連盟があるが、支援学校等を入れていただきたい。支援学校の生徒がスポーツをすることは今後自立するために十分役に立っていくと思う。特に障害者スポーツは、今後十分発展すると考えているので支援学校の生徒が大会等に出られるように、また学校でもスポーツを推進していただけるような環境をとった文言を入れていただければと思う。

それと、地域スポーツクラブというのが今は限られていると思う。地域スポーツクラブを各拠点に設置して県としても各市町村に指導すること、専門のコーチが少ないという話もあったが、これについても費用と人がかかる。

今後の課題としてこの5年間の間の中で地域クラブの増設と、人材、コーチの育成等を具体的に進めていただければと思う。

(事務局)

1 点目の支援学校の記載の部分について、先日障害者スポーツ大会が開催され、私も体育協会の理事長として出席した。支援学校の方も参加がやはり少なかったとは思いますが、参加していただいた。支援学校という形の表記の部分については、組織の関係もちょっと確認した上で追記できるようであれば、追記させていただく。

(事務局)

先ほどの専門性を有する指導者の不足というところだが、自身が小さい頃からやってきた方もいれば、指導者となって研鑽を積んで専門的な指導力を培っていく指導者もいる。県教育委員会としては、学校体育授業の指導力向上ももちろんであるが、運動部活動の指導者としての専門的な指導力の向上に向けても研修会等を開いているので、引き続き部活動などの指導力向上に向けても取り組んでいきたいと考えている。

(委員)

10 年間のスポーツ推進計画の中で5年目に一定の見直しをするということになっている。それが今回の改定の一つの作業だと思う。進捗状況を踏まえた一部の修正と言うことで、全部策定し直すということではない。

それを踏まえると、非常によく計画修正されているなど。前回の会議でチェックをお願いしていたところ、今日の説明の中で色々なところで修正されているという点が見えてくる。担当のところの目をきちっと通されているという点も非常に強みのある修正だと思う。

それと推進計画の覚悟としてこのサブタイトル。前回の時も、豊かなスポーツライフの創設を願ってということでスタートしてきている。そのままこの後の後半部でいけばいいのだが、ワンステップ目標値を上げていわゆるスポーツライフの質的向上ということになっている。この計画の覚悟がうかがえるということを見ると非常にこの計画が全国の見本になるような推進計画になっていると思う。

(委員)

15 ページの総合型クラブの育成支援のところ少し総合型の担当として話をさせていただく。

「地域での部活動の支援、部活動に代わり得る活動の取り組みを支援します」といった部分は少し無理があるような気がする。そこまではどちらかというと小学校、幼稚園の部分だが、部活動は中学校の話になってきている。

中学校の部活動支援をしていくにあたってやはり専門的な指導者が足りないという部分は課題として出てくる。競技団体としては普及に回すマネジメントをできる人員がいない

が、種目を教える人はいるので連携がとれれば少し前に進むのではないかと。

小学校、幼稚園というのは当然今も総合型クラブが活動している部分ではあるが、小学校6年生でだんだん辞めていって中学校では部活動に入っていくという流れがある中で、競技団体と総合型クラブのかけ橋ができれば、もう少し前向きに進んでいくのではないかと考えた。それを、(ウ)の「総合型クラブを育成するためにブロック別会議やスポーツ交流大会等の開催によるクラブ間の交流を促進させる」となっているが、ブロック別会議やスポーツ交流会はクラブの育成ではなく、クラブに参加している方のお互いの交流だったと思う。このブロック別会議やスポーツ交流大会に競技団体の支援、指導者の方とかを呼んでくれるような仕組みがあれば、総合型クラブを知ってもらえるというところがあるのかなと。

場所の確保については県内の指定管理の施設を活用して、指導者の確保については競技団体との連携ができれば、本当に前向きに進んでいくのではないかとと思う。

お互い競技団体の強みと、総合型クラブのマネジメント能力、地域の広報力の支援というものがあれば、もう少し前向きに解決していくのではないかなと思ったのでご意見させていただいた。

5 報告事項

(1) 令和5年度全国高等学校総合体育大会について

資料2により事務局(橋爪生涯スポーツ班長)が説明

〔質疑応答なし〕

(2) 学校部活動の地域連携・地域移行に係る推進協議会について

資料3により事務局(橋爪生涯スポーツ班長)が説明

〔質疑応答なし〕

(4) 第23回和歌山県障害者スポーツ大会の開催について

資料4により事務局(障害福祉課 橋本副課長)が説明

〔質疑応答なし〕

(5) 特別全国障害者スポーツ大会について

資料5により事務局(障害福祉課 橋本副課長)が説明

〔質疑応答等〕

(委員)

近畿代表のチーム競技はサッカーとか、バレーボール等がある。これはチーム編成されてから強化事業を計画されているのか。

(事務局)

強化事業として、定期的に練習をしている。それから県内にはチーム数というのがかなり少ない競技もあるので、他府県のチームと試合するにあたって少し交通費の補助やチームの道具の補助等、障害者スポーツ協会への寄付というようなものも活用しながら実施している。

6 閉会